OyaConvM5V4 かんたん取扱説明

2024.06.18 Ver.22

接続方法

1. USB 端子とキーボードとを接続します。
   （正常に接続されれば、キーボード接続状態が KEABOARD_READY になります。）
2. 本体左側側面にある赤い色の電源スイッチを一度押します。
3. OyaConvM5 が BLE(Bluetoorh 互換)接続されていることを確認します。
   （正常に接続されれば、無線接続状態が CONNECT になります。）

Type-C 充電端子から充電しながら使用することも可能です。充電中は電源を切ることは出来ません。

※ BLE (Bluetoorh4.0 以上互換) 接続は OyaConvM5 の電源が入っていることを確認してから、接続する機器の Bluetooth 接続方法に従ってペアリングして下さい。一度ペアリングされると次回からはその機器に自動的に無線接続されます。

※ 別の BLE (Bluetoorh4.0 以上互換)機器へ接続先を変更する場合には、**元のデバイス接続をいったん削除**してから OyaConvM5 の電源を入れ直し、新たな接続先に接続下さい 。

※ BLE (Bluetoorh4.0 以上互換) 再接続する場合は OyaConvM5 の電源を入れ直して下さい。

※ Type-C 充電端子は充電のみの機能です。デバイスへ信号を送ることは出来ません。

入力キーコード表示
（キーボード）

出力キーコード表示
（デバイスへ）

親指／英数切替ボタン

オプションメニュー
ボタン

レイアウトチャンネル切替
ボタン

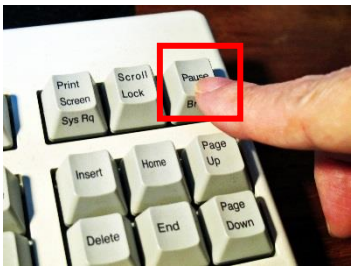
1．　電源を入れます。（接続方法の通りです）

2．　ご使用になりたいレイアウトチャンネルを液晶の表示で確認します。

3．　ファンクションキー「親指／英数」で親指シフト配列としてキーボード入力が出来ます。英数に戻す時には同じファンクションキー「英数／親指」を押します。

※キーボード Pause ボタンでも 親指／英数の切り替えは可能です。(下図)

（この場合、日本語入力切替とは連動しません。英数／親指モードの切替のみです。）



※「半角／全角」など日本語切り替えキーと連動して切り替えすることも可能です。

4．　親指シフトキー入力すると、ローマ字に変換した文字をパソコン（デバイス）側へ送ります。

5．　ご使用が終わりましたら本体左側側面にある赤い色の電源スイッチを押して電源を OFF します。（充電中は電源を OFF することは出来ません）

付属品

●メモリカード（TF カード、microSD 互換）

●充電用 USB Type-C ケーブル（ 20cm ）

ご予約時は、次ページ「ご注意・制限事項」を必ずお読み下さい。

ご注意

※ 本機でＰＳ／２キーボードを使用することは出来ません。

※ **複雑なキーレイアウト**を新規に作成する場合には設定料¥5,000- で承っております。まずはご相談下さい。なお、キーレイアウトはユーザー様ご自身でも設定変更可能です。

※ OyaConv 以外の**親指シフト環境サポート（パソコン設定など）**は出来かねますのでご了承下さい。

※ **初期不良（２週間以内**）のみ返品、ご交換に対応いたします。

※ メモリカード (microSD 互換)の **images フォルダ**（ディレクトリ）は変更したり削除をしないで下さい。表示に必要な情報が入っております。

※ 充電状態が 100%にならない場合は、**バッテリーの寿命**です。液漏れの心配もございますので、早めにご交換下さい。

※ Bluetooth **ペアリングを解除**する場合は、**ＰＣ,タブレット、スマホ側**の Bluetooth 設定で OyaConvM5 を解除、または削除して下さい。

※ 別のＰＣ, タブレット, スマホなど別の機器にペアリングを切り替える場合は、ペアリング済みの機器の**ペアリングをいったん削除、または削除してから**別の機器とペアリングを行って下さい。

※ microSD カードの**キーレイアウトをユーザー様で変更**された後には、USB-**TypeC ケーブルから電源供給**することを推奨いたします。キーレイアウトに問題があった場合、microSD カードのログファイル（OYALOG.TXT）へエラー情報を書き込みます。この時、比較的大きな電流が流れますので、外部からの安定した電源供給が必要となる場合があります。

※ 製品のご使用によって又はご使用できないことによって生じた付随的な損害（お客様の要求を満たさないために生じた業務上の中断、ビジネス情報の消失などによる付随的・間接的損害、逸失利益など）に関しては、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※ 製品細部の仕様は予告なく変更される場合があります。

※ ＰＣ、デバイスの日本語変換、キーボードそのものなど**他社製品についてのサポート**は致しかねますのでご容赦願います。

制限事項

※ **FMV-KB232** は特殊なキーボードのため、現時点では使用することが出来ません。

※ **MOBO2** キーボードではキーボードの充電状況によっては動作が不安定になる場合があります。

※ **PC 等のデバイス側に** BLE，Bluetooth4.0 以上の互換があることをご確認下さい。デバイス側に互換が無い場合（旧い PC，OS など）Bluetooth4.0 以上の新しい外付ドングルを装着してもペアリングは出来ません。

※ Logicool の **unifying キーボード**は、OyaConvM5 を介するとキーボードの無線接続が出来ない場合があります。

※ **キーボード－OyaConvM5 間で Bluetooth 接続**は出来ません。

※ **iPad , Mac** 用にユーザー様がキーレイアウト設定される場合は、**ANSI（US） キーボード**としてご使用下さい。iPad , Mac 側の設定を JIS キーボードにすると一部キー（アンダーバー、￥キー）がご使用になれません。

※ OyaConvM5 ファームウェアは買い取りになります。無償バージョンアップには対応しておりません。

※ 大電力が必要なキーボード（全キーが光るゲーミングキーボードなど）はご使用になれません。

Mac, Lunux での修飾キー（Control, Alt , Command）同時押しでの不具合は V4 で解消いたしました。

メモリカード交換例

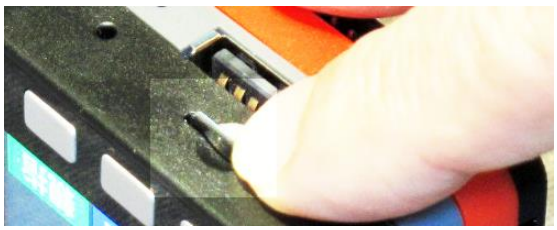
※ キーレイアウト設定サービスご利用のユーザー様はご一読下さい。
※ メモリカードの飛び出しと、真っ直ぐに挿入することにご注意下さい。メモリカード接触不良の原因となります。

取り外し

①

メモリカードが飛び出さないように片手の指を添え、もう片方の指の爪でメモリカードを押し込み、メモリカードを取り出します。
カチッというクリックがあれば取り出せています。

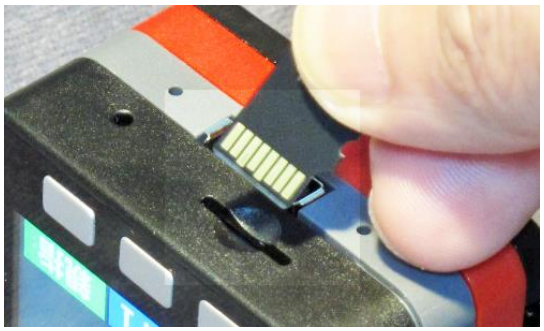
②



この状態でメモリカードを少し押して、メモリカードにバネが効いていることを確認します。
メモリカードを取り出します。

挿入

③

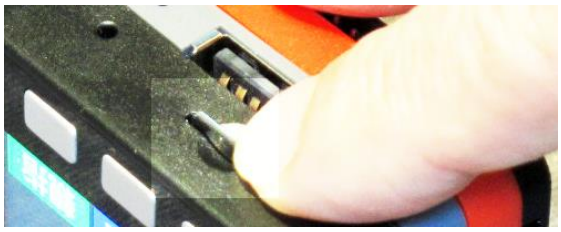


メモリカード挿入方向を確認します。

④

新しいメモリカードをスロットの中心に落とし込むようにまっすぐに投入します。

⑤



メモリカードを指でそっと押し込みます。
正しく挿入されている場合、②で確認したバネでメモリカードが沈み込みます。
正しく挿入されていない場合にはバネが効かず、**ガリガリとした抵抗**があります。その場合は、**すぐに取り出し、再度メモリカードをまっすぐに挿入し直して**下さい。

⑥

①と同様、メモリカードを片手の指で添え、もう片方の指の爪でメモリカードを押し込み、メモリカードをカチッとクリックがあるまで挿入します。
以上で完了です